

聖霊女子短期大学
令和 4 年度
教職課程 自己点検・評価報告書

生活文化科 生活こども専攻

目次

教職課程の概要	1
【基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み】	
基準項目 1-1 教職課程の目的・目標を共有.....	1
基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫.....	4
【基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援】	
基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成..	5
基準項目 2-2 教職へのキャリア支援.....	6
【基準領域3 適切な教職課程カリキュラム】	
基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施.....	6
基準項目 3-2 実践的指導力と地域との連携.....	7

教職課程の概要

聖霊女子短期大学の建学の精神は、カトリックの価値観、世界観、人間観に基づいて真理を探究し、愛に生きる全人教育である。

本学は、秋田県中央に位置する秋田市(県庁所在地)に立地し、1 学科(生活文化科)、3 専攻(生活文化専攻・生活こども専攻・健康栄養専攻)から構成される 2 年課程の短期大学である。健康栄養専攻には、専攻科を設けている。

入学定員は、生活文化専攻 50 名、生活こども専攻 50 名、健康栄養専攻 60 名、専攻科健康栄養専攻 15 名である。秋田県においては、幼稚園免許状二種の教職課程を持つ短期大学は 2 校である。同じく県内で栄養教諭二種免許状の教職課程を持つ短期大学は本学のみである。

I 取得できる教職免許状

以下の教職免許状を、生活こども専攻の教職資格必修科目履修者が取得できる。

【生活こども専攻】幼稚園教諭二種免許状

II 教職課程履修者、免許取得者数

令和 4 年度の教職課程履修者数・免許状取得者数は以下の通りである。

教職免許状種別	教職課程履修者数	教職免許状取得者数
幼稚園教諭二種免許状	34 名	34 名

III 教職課程に係る組織

本学では、全学組織である教務部会と、専攻の教職課程担当者が適切な役割分担を図っている。

[基準領域 1 教育課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み]

基準項目1-1 教職課程の目的・目標を共有

<基準項目1-1の現状>

本学では、建学の精神に基づき教育目標および教育目的を確立している。本学の教育目標は以下の通りである。聖霊女子短期大学の教育は、建学の精神であるイエス・キリストの愛に根ざし、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であるという確信にもとづいている。神と人から愛されていることや、豊かな可能性が与えられていることに気づかせ、知性をはじめ全ての能力を開花させるように、教育計画を構想し、実践している。特に、女性の尊厳と特性、使命を理解させ、さらに地球家族の一員として、国際的視野をもって他人に対する尊敬と思いやりを実行できる人間形成を目指している。

生活こども専攻の教育目的は、人間の命の大切さを深く心にとめ、子どもたちの豊かな成長を図る力を身につけた保育士・幼稚園教諭の育成に係わる教育研究を行うとともに、慈しみの心をもって、社会に貢献できる人材の育成である。

これらに基づき専攻のディプロマポリシーを定めている。令和4年度に、学科および各専攻において協議を重ね、教授会での審議を経て建学の精神および学力の3要素を踏まえてディプロマポリシーを改定した。ディプロマポリシーは、本学ホームページ・学生便覧に明記し、学内外に表明しており、学校教育法の短期大学の規定に照らして、年に1回各専攻会議において点検している。

生活こども専攻のディプロマポリシーは、以下の通りであり、これらは生活こども専攻が育成したい教師像に対応する。

- ①子どもの発達を保障するための専門的知識と発達を支える実践的力を備え、それを改善する力を獲得している。
- ②科学的・論理的思考に基づき、保育・教育における現代的課題に対応するための思考力と判断力および表現力を獲得している。
- ③多様な子どもや文化を尊重し、保育者として社会に貢献しようとする使命感や責任感を獲得している。

幼稚園二種免許状の教職課程の具体的目標と計画は以下のとおりである。

1 生活こども専攻 幼稚園教諭二種免許状

(1) 幼稚園教育実習

幼稚園教諭二種免許状を取得しようとする者は、所定の単位を修得しなければならない(教育職員免許法第五条及び同施行規則第二条)。

幼稚園教諭二種免許状取得のための教育実習として5単位(幼稚園教育実習指導の1単位を含む)が規定されている。本学の幼稚園教諭二種免許状取得に関する実習科目を以下に示す。

実習種別	単位数	実習日数・時間*
幼稚園教育実習指導	1単位	22時間30分
幼稚園教育実習(1年次)	2単位	10日・80時間
幼稚園教育実習(2年次)	2単位	10日・80時間

*本学では、実習は40時間をもって1単位とする(「聖霊女子短期大学学則」第13条)

(2) 幼稚園教育実習の目標

1 年次

- ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。
- ②実習日誌の意義や役割を理解し記録する力を身につける。
- ③実習に参加するために必要な知識や技能の基礎を身につける。
- ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。

2 年次

- ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。

- ②実習日誌や指導案の意義や役割を理解し記録する力や作成する力を身につける。
- ③実習に向け必要な実践力を身につける。
- ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。

(3) 幼稚園教育実習の計画

令和 4 年度の幼稚園教育実習の実施時期を以下に示す。

実習種別	日程
幼稚園教育実習(1年次)	令和 4 年 9 月 21 日(水)～令和 4 年 10 月 4 日(火)
幼稚園教育実習(2年次)	令和 4 年 10 月 17 日(月)～令和 4 年 10 月 28 日(金)

(4) 幼稚園教育実習の事前事後指導

幼稚園教育実習指導は、1年次前期から2年次後期にかけて45分間×30回実施し、実習の事前事後指導を行っている。生活こども専攻では、卒業前の2月に2年生が1年生を対象に校外実習報告会を行っている。この報告会では、2年生一人ひとりが自身の発表したい実習種別を選択し、子どもの発達、責任実習などのテーマから掘り下げたい内容を設定する。学生は、テーマに沿って自身の実習を発表資料にまとめて発表する。これにより、2年生は自身の2年間の実践的学びを省察し、就職後の保育者としての展望を明確にする。1年生は、2年生の発表を聴講したり質問をしたりしながら、2年次の実習に参加する意欲を育み、実習に関する知識を習得する。

(5) 幼稚園教諭二種免許状取得のための教育課程

教員免許法施行規則に定められた科目を柱とした授業科目を体系的に編成した中で、教職課程コアカリキュラムに基づいた単位を修得していく。

幼稚園教諭養成に関する科目とその学修時期を以下に示す。

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
<ul style="list-style-type: none"> ・教職概論 (幼稚園・保育所) ・教育心理学 ・保育内容・人間関係 ・保育内容・言葉 A ・保育内容・表現 (身体 A) ・保育内容・表現 (造形 A) ・幼稚園教育実習指導 ・日本国憲法 ・体育実技 ・英語 A 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育原理 ・保育内容・表現(音楽 A) ・保育内容総論 ・幼稚園教育実習 ・幼稚園教育実習指導 ・体育講義 ・体育実技 ・英語 B 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育 ・教育課程総論 ・保育内容・健康 ・保育内容・環境 A ・保育内容・言葉 B ・保育指導法 ・幼稚園教育実習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度論 ・特別支援教育 ・教育方法論 ・幼児理解 ・教育相談 ・教職実践演習 (幼稚園・保育所) ・保育内容・環境 B ・幼稚園教育実習 ・幼稚園教育実習指導 ・情報処理演習

< 基準項目1-1 の課題 >

生活こども専攻では、幼稚園教諭免許状の教職課程を有する県内の大学・短大で連絡会議を開

催し、年間 1～2 回の情報交換を実施している。その会議において、地域の幼稚園、認定こども園、保育所などが抱える潜在的・顕在的ニーズに関する情報を共有している。得られた情報を本学の教育目標および教育目的に照らすことにより、本学の教育目標および教育目的に基づく人材育成が地域・社会の要請に応えているかどうかの点検を年に1回専攻会議において行っている。一方で、地域・社会の要請に関する情報の把握状況は十分ではない。今後は、幼稚園や認定こども園などに勤務する教員と直接協議することにより、さらなる情報把握と、それに基づく教職課程の目標・目的の見直しを継続する必要がある。実現に向けて、県内で保育者を要請する大学・短大とともに幼稚園や認定こども園との懇談会の企画を開始している。

<根拠資料>

- 1 2023年度学生便覧
- 2 聖霊女子短期大学 HP

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

<基準項目1-2の現状>

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

教職課程の運営に関して全学組織(教務部会)と学科(専攻)の教職課程担当者で適切な役割分担を図っている。生活こども専攻、健康栄養専攻の教職課程の運営は、両専攻主任が中心に行い、専攻会議での課題の審議や検討などを踏まえて、学科長および教務部長への報告を随時行う。

教職課程を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。教職課程の学習の質向上のため、図書館の利用促進を図っている。図書館には、教職課程各教科の教科書だけでなく、シラバスに掲載された参考図書も揃えられている。ICT 環境については、パソコン室を4室備えており、学内のWi-Fi環境については順次整備を進めている。

教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの実施・活用をはじめ、FD(ファカルティ・ディベロップメント)やSD(スタッフ・ディベロップメント)の取り組みを展開している。令和4年度は、短大研修会の際に、「建学の精神と学力の3要素を具現化する『シラバスづくり』」「主体的な学びを支え、論理的思考力を育むディベート教育の実践」「健康栄養専攻産学連携型授業」などのタイトルで教職課程を有する両専攻の教員が全教職員に対して講義を行い、意見交換を行った。

授業アンケートは、毎年前期、後期に各科目担当が選択した教科について全学で行っている。アンケート結果については、各担当教員にフィードバックされ、それぞれの授業改善に活用されている。

教職課程に関する情報公開を令和4年度分から短大ホームページにおいて公開している。

教務部会と学科(専攻)教職課程担当とが連携し、教職課程のPDCAサイクルを回すことを目的とした教職課程の自己点検評価を開始した。この結果について、自己点検評価報告書を作成し、

情報公開を行う。

<基準項目1-2 の課題>

現在は、教務部会と生活こども専攻・健康栄養専攻の教職課程担当者が連携・協働して教職課程の見直しを図っている。一方で、全学の教職課程を組織的に運営できる枠組みを整備するため、全学の教職支援室の設置を検討する必要がある。

<根拠資料>

- 2 聖霊女子短期大学 HP
- 3 2022 年度聖霊女子短期大学教職員研修会配付資料

【基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援】

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

<基準項目 2-1 の現状>

教職課程を有する生活こども専攻は、以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

- ①本学の建学の精神、教育理念に共感し、人間の尊さと可能性の豊かさに目覚めて、真理、愛、自由の探求をしようとする人。
- ②保育・教育の専門的知識と技術を学ぶための基礎学力を備えた人。
- ③課題解決に向けた探求の土台となる論理的思考力を備えた人。
- ④地域社会やグローバル社会に貢献しようとする意欲を持ち、主体的に他者や多様な文化を理解しようとする思いやりの心や、協働するためのコミュニケーション力を備えた人。

生活こども専攻では、オープンキャンパス学科紹介、高校教員対象のガイダンス、高校生対象の進路ガイダンスなどを通して教職課程の具体的内容について上記のアドミッション・ポリシーを踏まえて説明している。

当該教職課程に則した適切な規模の履修学生を受け入れている。生活こども専攻の定員は 50 名であり、全員免許取得を目指しうる学習環境を確保している。

「教職実践演習」において履修カルテを活用することにより、学生一人ひとりの学習状況を学生自身が省察し、それを教員が確認・助言する教職指導が行われている。

<基準項目 2-1 の課題>

生活こども専攻では、幼稚園教育実習の参加資格を「幼稚園教諭二種免許状に必要な科目の単位を取得しているか、取得が見込まれること」と設定した上で、事前指導を行って学生を実習へ参加させているものの、実習園から学校側が期待する評価を得られない学生が少数存在する。そのような学生には再実習に加え、さらに専攻独自で子どもに関わるボランティア参加などを課し、ともに振り返りを行うことにより、学生の保育実践力を高める工夫をしている。このような指導のさらな

る充実が今後の課題である。

<根拠資料>

- 1 2022年度学生便覧
- 2 聖霊女子短期大学 HP
- 4 2022年度保育士課程・教職課程履修の手引き
- 5 履修カルテ(生活こども専攻 健康栄養専攻)

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

<基準項目 2-2 の現状>

本学では、就職支援室、2年生アドバイザーを中心に学生の就職希望を把握しながら、個別面接等での就職支援全般を組織的に行っている。学生の就職希望状況は、専攻会議において共有している。

就職支援室では、教職に関する募集等の情報を適切に学生に周知している。幼稚園教諭・保育教諭としての就職率を高める工夫として、令和5年度は、秋田市内の認定こども園の園長と保育教諭を本学へ招いて仕事内容を紹介してもらう計画をしている。

生活こども専攻は、保育者就職開拓特別チームを専攻主任を中心に組織し、就職先との連携を図っている。

<基準2-2の課題>

生活こども専攻の就職率を見ると、例年9割以上が保育所・幼稚園・認定こども園などに就職しており、学生は概ね希望する職種に就くことができている。今後は、学生がより希望するエリアや希望する特色を持つ園に就職できるよう、キャリア支援を充実させる必要がある。

<根拠資料>

- 6 2022年度生活こども専攻会議議事録
- 7 2022年度全体会議事録

【基準領域3 適切な教職課程カリキュラム】

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

<基準項目 3-1 の現状>

本学の学習成果を達成するために、ディプロマ・ポリシーに基づいて、学科・専攻の教職課程カリキュラムを組織的、体系的に編成している。なお、学生が1学期に登録できる単位数の上限は28単位としている。

生活こども専攻の教職課程では、保育・教育の基礎理論を学習し、演習科目や実習により実践的技能を習得する。また、教職課程には含まれないものの、令和5年度より2年次から個人の興味

関心に合わせて自由に一部の科目を履修できる「総合保育コース」「国際保育コース」からなる2コース制を開始する。「総合保育コース」は、遊び・実践分野とICT分野から構成され、実際に地域の親子に向けた遊び演習型の科目や、ICTを保育に活用する可能性を探求するICT教育演習などの科目を設定している。「国際保育コース」は、国際教養分野と英会話分野から構成され、アメリカ語学セミナーや海外保育実習などの短期間の海外体験ができる科目を設定している。なお、令和6年度より、さらに「インクルーシブ保育コース」「SDGsコース」の2コースを追加する計画である。これにより、学生が学習意欲を育み、これからの幼稚園教諭に求められる専門性を深めることが期待できる。理論と実践の往還により、幼稚園教諭としての専門性の向上を図る。

教育方法の基本的な枠組みとして、ケア、学習、実習、コーチングを重視する。また、調査・分析・発表・討論などのアクティブラーニングを取り入れた、学生の主体性を重視する少人数制の参加型授業を行う。グローバルラウンジにおける授業時間外での英会話やICT学習をはじめ、学生の自主的・主体的な学習活動を支援する。キャリア支援ロビーには、学生が自身の感情と向き合うためのスペースを整備している。ここでは、対人援助の基礎となる自己理解の促進を支援する。

成績評価については、短期大学設置基準に則り、学則第12条に定めている。授業担当者は各科目において到達目標を定め、その達成状況により成績を評価している。評価基準として、筆記試験・レポート・授業内確認テスト・受講態度・リフレクションシート・実践発表等を設定し、各評価指標の割合を踏まえてシラバスに詳細を記載している。

<基準項目3-1の課題>

今後、生活こども専攻では、コース制の導入により学生の時間割に余裕がなくなる。学生の興味関心にあった科目を希望する限り履修できるよう、時間割の構成を工夫する必要がある。

<根拠資料>

- 1 2022年度学生便覧
- 2 聖霊女子短期大学 HP
- 8 聖霊女子短期大学 GUID BOOK 2023

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

<基準項目3-2の現状>

教職課程を取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成するカリキュラムを設定している。生活こども専攻の科目担当の一部は教育機関の実務経験者を配置している。

生活こども専攻では、令和5年度から秋田県児童会館と協定を結び、学生ボランティアの受入と学生による親子を対象とした遊び場のイベントを実施する計画である。また、学内でも地域の親子を招いた子育て支援イベントを開催する計画である。

<基準項目 3-2 の課題>

実践的指導力の養成には、学生が子どもと関わる機会を増やすことが必須である。これにより、学生は教師になる意欲、子どもを理解する力、教師としての指導力を身につけることができる。そのため、今後は、地域との連携をさらに強め、実習以外の場で学生が子どもと関わる機会を増やすことが課題である。

<根拠資料>

- 1 2022年度学生便覧
- 4 2022年度保育士課程・教職課程履修の手引き
- 6 2022年度生活子ども専攻会議議事録